

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270103965		
法人名	有限会社 きずな		
事業所名	有限会社 きずな グループホーム きずな	ユニット名	
所在地	長崎市矢の平4丁目3番7号		
自己評価作成日	平成26年2月5日	評価結果市町村受理日	平成26年3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-3-1 博多いわいビル2F		
訪問調査日	平成26年2月21日	評価確定日	平成26年3月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

7名定員の民家型です。家庭的な雰囲気のあるホームです。安心・安全・健康な日々を過ごしていただいています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“私が年をとっても障害をもっても、こんな家に住みたいなあ・・・私が年をとっても障害をもっても、信じ合える家族と一緒に楽しく住み慣れた所でのおんびり不安がなく笑顔で過ごしたいなあ・・・ 私らしく・・・。”という理念は、代表(管理者)が思いを込めて作られたものであり、職員も理念を大切にされている。口腔ケアや食事、排泄支援も細やかに行われ、利用者の方々も穏やかに過ごされている。ご本人の思いや能力を信じた関わりが続けられ、転倒を心配し過ぎて、見守りが強くなり過ぎていないか、自己満足の声かけになっていないか等、職員同士で振り返りが行われている。開設して10年が経ち、近隣の方々に挨拶に伺うと、「早いね～」と一緒に喜んで下さった。以前、入居しておられた方の家族からは、「いつまでも“きずな”を続けて下さいね」と言う温かい言葉を頂いた。これからも職員のチームワークを大切に、ひとつ屋根の下で、笑顔で元気に過ごせるように努めていく予定である。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員・管理者は、ご利用者が地域で生きる事の大切さを理解してより良い関係がつけられるようにその方らしさを大切に日々の支援に努めています。	先輩職員が新人職員に、「自分がされて嫌な事は相手も嫌ですよ」と、優しく指導する姿が見られている。職員個々の価値観が異なる事も理解し、職員は常に、ご利用者の行動の原因を分析し、管理者に相談できる体制ができており、医療連携も図られている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご近所の方々とあいさつを交わしたり季節の行事の時の情報交換等、日常的に交流しています。	開設から10年が経ち、地域との信頼関係も深まっている。毎年、手作りの“ちまき”を近所の方にお配りしており、「待ってました」と言う嬉しいお言葉を頂く事ができた。25年度は、初めて町内の夏祭りのパザールに品物を出す事ができ、家族の方もサラダ油のセットなどを提供して下さった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症に対する理解を深めて頂くために「ケアの方法」や認知症の方の「心の変化」や「理由があつての行動」などを地域の方々に具体的に話しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族、地域の方々の意見や希望を、日々のケアにとり入れています。	「運営推進会議のお誘い」の文書を開催毎に送付したり、家族のお休みの日に開催できるように工夫している。認知症を患っても「できる事がある事」を理解して頂いており、参加者の方から、地域の餅つきの情報や感染予防などのアドバイスを頂いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議をとうして、市町村担当者に事業所の取り組み等を伝え協力関係を築くように努めています。	毎年訪問して下さる介護相談員の方には、一緒に昼食を食べて頂き、ご利用者とお話をして頂いている。認知症サポートリーダーの施設研修も受け入れ、研修時に「こんなに大事にしてもらって幸せですね」と言う感想を頂いた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はしない身体拘束しないケアに事業所全体で取り組んでいます。	“ご利用者が鏡”と言う事を、管理者は常々職員に伝え、職員個々の言動を振り返る機会が作られている。ご利用者の日々の感情に寄り添い、その時のお気持ちに応じた関わりを続けている。原因を含めて医師に相談し、適切な医療機関の紹介も頂いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について、定期的に学ぶ機会を設けています。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び活用できるように努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約・改正の際はご利用者、ご家族等の不安や疑問点を尋ねわかりやすく説明しご理解頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所全体でご利用者・ご家族の意見・要望を言える機会を設けるように努めています。	25年度は家族会を開催し、たこ焼き等も一緒に楽しまれた。馴染みの職員が多い事もあり、新任職員の紹介も丁寧に行い、面会時やメール等で情報交換を続けている。「安全に健康に過ごして欲しい」と言う家族の願いも理解し、健康管理にも努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案は積極的に聞く機会や話しやすい環境作りに努めています。	勤務が長い職員も多く、馴染みの関係が作られている。馴染みの関係の良さと共に弱点もあり、新人教育を行う中で、物品の保管場所やご利用者の衣類や持ち物の判別など、職員が当たり前に行っている事の指摘を受け、マニュアルの追記も行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績・勤務状況を把握し、各自やりがいがあり働きやすい職場の環境や条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加できるように、シフトや開催時間の調整に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員が同業者と交流する機会を作るように努めています。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が困っている事、不安な事、要望等に応じられるように信頼関係の構築に努め ご本人が安心して過ごしていただけるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が困っている事、不安な事、要望等に応じられるように信頼関係の構築に努め ご家族の安心を確保するように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、ご利用者と暮らしを共にする者同士の関係を築くように、一緒に食事を食べたり洗濯物をたたんだりしながら生活しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご本人とご家族の絆を大切にしながら支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないように外出や面会等、ご家族と連携をとりながら支援しています。	家族や知人の方が面会に来て下さり、お部屋やリビングで過ごされている。受診の帰りに長崎市内をドライブし、ご利用者から地名等を教えて頂いている。入院された方が、ホーム自体が馴染みの場所になっている事がわかり、職員も嬉しい思いで一杯になられた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係を把握し、ご利用者同士の関わり合いをできるような支援に取り組んでいます。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、これまでの関係を大切にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方らしい思いや暮らしを続けられるように、ご本人・ご家族の希望・意向等の把握に努めています。	“その人を知る”事を大切にされている。団欒時に、大好きなお花のパンフレットを見ながら会話を膨らませたり、一緒にテレビを見ながら、「お刺身が食べたい」「ケーキが食べたい」等の要望を伺っている。サスペンスがお好きな方もおられ、集中力の把握にも努めている。	今後も、新人職員と家族との信頼関係を深め、会話をしやすくするために、管理者や他の職員が間に入っていきたいと考えている。また、庭での外気浴などを含め、生活リハビリの機会も増やし、家族への報告をしていく予定である。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その方の生活歴や馴染みの暮らし方・背景・サービス利用の経過の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方・心身状態、有する能力に応じた支援またホームの中で役割をもって過ごして頂けるようにに努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人が心地よく生活して頂けるようにケアの在り方についてよく話し合い、意見を反映できるようなサービスの提供に努めています。	ご本人と家族と担当者会議をしており、ご本人の能力を信じて“できる事”をして頂いている。洗濯物をたたむ・食器を洗う等の役割と共に、お手玉やあやとり等の特技や楽しみも盛り込まれている。今後は更に、3表を作成予定であり、専門用語も減らしていく予定である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果・気づき・工夫した点等を個別記録や申し送りシートに記入し情報の共有に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりのニーズを把握し柔軟な支援やサービスの提供に努めています。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全で豊かな暮らしを楽しむ事が出来るように、地域の資源の把握や他の業種の方々と情報の交換に努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携が、良好であるように努めています。	往診医(月2回)と訪問看護師(毎週)との情報交換が密に行われている。職員は便を見ただけで、どの利用者の便かわかり、ご様子の変化を観察し、異常の早期発見、早期治療に繋げている。受診は看護師が同行し、家族との情報共有もできている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は日々の暮らしの中での気づきや体調の変化を、訪問看護師や医師に伝え相談しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院した際は安心して治療ができ、早期に退院出来るように、ケアの方法を書面で伝え情報交換や相談に努めると共に病院との連携を構築しています。入院中も可能な限り複数回お見舞いに伺い、安心した入院生活が送れるように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方について複数回、ご本人・ご家族と話し合いの機会をもち、要望を把握するように努めています。	24時間体制で医療連携が図られ、夜中でも医師が来て下さる体制ができている。「最期までここで…」と言う方が多く、精神誠意のケアが行われている。終末期には、できるだけ家族と過ごして頂くために、家族用の寝具等も準備している。体調が変化した場合は専門医での検査も受けられ、家族に診断結果などの説明が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は応急手当や初期対応の訓練・研修を行い実践力を身につけています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に備えた避難訓練を定期的に行っています。	スプリンクラーと非常灯の点検も行われている。25年9月からは毎月訓練が行われ、消防署、地域包括職員、民生委員、訪問看護師、家族の方等が適宜参加して下さっている。2階の方は窓からの避難と共に、階段を降りる時の布団も準備しており、災害に備え、食料や水等も準備している。	

自己	外部		自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の個性・今まで生きてこられた生活史を把握し、一人ひとりの人格を尊重し、尊厳を大切に支援しています。	管理者は、ご本人の誇りやプライバシーを損ねないように指導しており、「ケアされる内容をご本人が理解できれば、拒否をされる方はおられない」と言う事も伝え、事前の声かけを丁寧に行っている。今後も新人職員を含め、個人情報管理に関する研修を続けていく予定にしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、ご本人がやりたい事やこうした等の思いや希望を表せ自己決定出来るように支援しています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースに合わせたりどのように過ごしたい等の、希望にそった暮らしを支援しています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	使い慣れた鏡台、衣類、靴をご自宅より持ってきていただきおしゃれをして過ごして頂けるように、ご家族と一緒にやり支援しています。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みやその方が持つ力を活かしながら、食事を楽しんでいただいています。	地元の魚屋の協力もあり、毎週、美味しいお刺身を食べられている。3食とも宅配サービスを利用しているが、豆ごはんや茶わん蒸し、ケーキ作りなど、手作りの機会も増やしている。ご利用者の方も、配膳、下膳、食器洗いなどを手伝って下さり、職員と一緒に食事を楽しまれている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事及び水分摂取量を、1日を通じて確保できています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っています。月に1回の歯科衛生士さんによる口腔内の健診を、また半年に1回の歯科医の診察も行っています。			

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄のパターンを、職員が理解しており、排泄の自立に向けて支援しています。	布の下着の方もおられ、トイレでの排泄支援を大切にしている。トイレまでの行き来が、日々の重要な生活リズムにもなっている。ご本人にとって“心地よい声かけ”かどうか大切にされており、自立支援でのアセスメントも丁寧に行い、職員同士の情報共有もできている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の及ぼす影響を職員は理解しており、その方に応じた予防や飲食物の工夫に、施設全体で取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の希望や体調、気分の良い時に入浴して頂いています。	気の合う方同士で入浴する時もある。職員との会話を楽しまれ、歌が出る事もあり、菖蒲湯や柚子湯も楽しんでいる。職員が抱っこして入浴される方や、2人介助をする時もあり、体温調節が難しい方には、少し高めの湯温で温まって頂いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣(好きな場所・布団やまくらを準備する等、)把握し、その方に応じた安眠や休息ができるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援や症状の変化の確認に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者は、それぞれ役割をもたれ生き生きと毎日をご過ごして頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご家族との外出のお手伝いや美容室一緒に付き添う等、一人ひとりの希望にそった外出の支援に努めています。	坂道が多い地域でもある。寒さが苦手な方も多く、日常の外出が難しい状況にあるが、季節に応じて、季節の花見やランタンフェスティバル、おくんちの“庭見せ”などにお連れしている。家族と一緒に、ご主人の生活場所に行かれている方もおられる。	お散歩よりも、ホーム内で過ごす事を好まれる方も多いが、今後は、少しでも庭での日向ぼっこ(生活リズム)の機会を増やしていきたいと考えている。外気に触れ、気分転換の機会を作りながら、お花見等の機会に繋げていく予定にしている。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、お金を持つ事大切さを理解してお金を使えるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者が、忘れてしまったご家族の名前や家族関係を把握し、ご利用者に伝え関係が途切れないように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間はもとよりホーム全体が、安全で安心して快適に家庭的な環境の中で過ごして頂けるように努めています。	25年度は、念願であった畳のスペースをリビングに設置する事ができた。畳の間でお昼寝される方もおられ、足を伸ばす機会にもなっている。リビングと台所が同じ空間にあるため、食材の香りを感じる事ができている。2階への階段にも手すりがあり、リハビリを兼ねての移動が行われ、職員は常に物音を察知し、個別の介助を続けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過ごして頂けるような居場所を複数、提供しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、ご利用者のお気に入りの家具や鏡台をおき、間取りをご利用者の自宅の部屋に、少しでも近づくような家具の配置にして、居心地よく過ごして頂けるように努めています。	民家改装であり、24年度には全室を畳に変更されている。2階の居室も窓から陽が射し、お部屋で過ごされている方もおられる。箆箆や鏡台、ぬいぐるみ、観葉植物等と共に、お位牌やお数珠、家族の写真などの大切な物も持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、個々の持っている力が十分に発揮でき安全に過ごして頂けるように、手すりを設置したり家具の配置を工夫したりして、自立した生活を送って頂けるようにしています。		